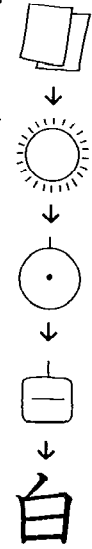


白

二年 画数 5
 筆順 ノ、イ、白、白
 オン ハク・ピヤク
 ツン しろ・しろ、しい・しら

成り立ち



お日さまの「日」に、ひかりのしるしをあらわした「一」をくわえて、お日さまのひかりの「しろい」といういみをあらわした字です。

「一」が「ノ」となるのは、「日」につづけてかくためにそうなったものです。こういうれいはおおいので、これからもちゅういしてみつげてください。

「白」はいちばんあかるいいろなので、「はつきりしている」といういみにつかわれます。

また、「白紙」といえば、「白い紙」ということですが、「なにかいてない紙」また「まだじぶんのかんがえをきめていないこと」といういみにもつかわれます。「いう」といういみにつかうこともあります。

使い方

- ▽ひなまつりの白酒はあまくておいしい。
- ▽かいがんに白波がうちよせています。
- ▽あたりいちめん白銀のせかいです。
- ▽どちらがただしいか黒白をつけましょう。

熟語例

▽白銀（銀のことで、むかしは「しろがね」といいましたので、「白銀」ともいいます。ゆきのことをいうのによくつかいます。）

▽黒白（黒か白か、ということ。黒とは、「ふせい」「あく」など「わるい」ことのみみ。白は、「ぜん」「ただしい」など「よい」ことのみみをあらわしています。「ただしいか、ただしくないかをはつきりさせる」ことにつかうことばです。）

▽白昼（あかるい昼ま。まひる）

▽明白（明も白も「あかるい」「はつきりしている」といういみ）

▽敬白（「一つしんでもうしあげます」といういみで、てがみのさいごにかくことば。白は「いう」こと。）

八

二年 画数 2
 筆順 ノ、ハ
 オン ハチ
 ツン や・や、二つ・やつ、二つ・よう

成り立ち



一ばんのぼうを二つにわけたかたちをあらわした字です。「八」は、二つにわけると「四」、さらにわけると「一」、さらにわけると「一」となるように、いちばんよくわかることのできる「すう」です。それで「わかる」しるしの「ハ」で、「はち」をあらわしました。「おおい」といういみにつかわれます。

使い方

▽「八」というすうは、したにむかってひろがるかたちなので、「すえひろ」といって「えんぎのよい」「すう」とされていきます。

熟語例

- ▽八重（八は「おおい」こと。いく重にも重なること。）
- ▽八苦（いろいろな苦しみ）
- ▽八方（四方とそのあいだの八つの方角）。いろいろな方角。「方々」
- ▽八千代。▽八日。▽八百屋。